

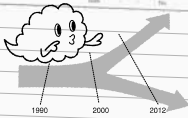


HOKKAIDO! ECO

地球の“いま”と向き合い、“いま”に気付いて、“いま”から思いやりのある行動を
地球にやさしい・エコプロジェクト



温室効果ガスは減ってる？ 増えてる？



「-6%」は世界との大切な約束

1997年の地球温暖化防止京都会議（COP3）で採択された「京都議定書」。この中で日本は、2012年までに温室効果ガスの排出量を1990年と比較して「6%」削減することを世界に約束しました。その約束から約11年間、日本では地球温暖化を防止するためのさまざまな取り組みを官民一体で行っています。

逆に増えてしまった温室効果ガス

ところが2006年度の日本の温室効果ガス排出量は13億4,100万トンと、京都議定書の基準年である1990年に比べて逆に「6.2%」も増えています。つまり京都議定書の約束である「-6%」を達成するためには、まだ16年間のうちに増加した6.2%分を削減し、そこからさらに6%分の温室効果ガスを削減しなければならないのです。

温室効果ガスはなぜ増えている？



今も増え続けているエネルギー消費

温室効果ガスの排出量が増えている原因は、石油などのエネルギー消費量の増加です。現在わが国では産業・運輸・一般家庭など各方面で省エネ・省資源への努力が続けられていますが、経済活動の拡大に伴い進行状況はあまり芳しくありません。特に06年度は製造業からのCO₂排出量がわずかながら増加し、前年度に比べて+0.6%となっています。

家庭からのCO₂排出量にも問題が

また一般の家庭から排出されるCO₂の量も大きな問題を抱えています。06年度の家庭部門のCO₂排出量は前年度に比べて4.4%減少しましたが、これはこの年の冬が比較的暖かく、暖房などのエネルギー消費量が減少したからです。冬の寒さが厳しかった05年度は前年度に比べて4.0%増加するなど、状況によって安定しないのが最大の問題です。



シリーズ9回目のキーワードは“+6.2%”

地球環境

VOL. 9

「北海道発・地球環境ノート」は、「地球温暖化」防止に向けた温室効果ガス6%削減を実現するために、世界・日本・北海道の環境の“いま”や今すぐ実践できる“地球にやさしい生活”をシリーズでお伝えします。

1997年に採択された京都議定書で

日本が世界に約束した“温室効果ガス6%削減”。

今回のキーワードである「+6.2%」は

その約束と密接に関わっている数字です。

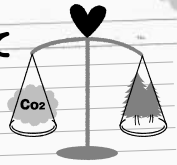
わたしたちの排出する温室効果ガスは

少しずつ減っているのか、それとも……？

この「地球環境ノート」を読んで、

日本の温暖化対策の“いま”を知ってください。

カーボン・オフセットって何のこと？



排出されたCO₂をオフセット（相殺）

わたしたちが近代的な生活や経済活動を続けていく上で、温室効果ガスの排出量削減には限界があります。そこで今注目を集めているのが「カーボン・オフセット」という考え方です。これは温室効果ガスの排出量そのものを削減する一方、大気中のCO₂などを何らかの方法で吸収することで、すでに排出された分を相殺（オフセット）する活動を指します。

植林や新エネルギー開発でCO₂削減

カーボン・オフセットの最も身近な例が「植林・植樹」です。森林には大気中のCO₂を吸収・定着する働きがあり、植林によって緑の自然を増やすことで、大幅なCO₂削減効果が期待できます。また企業が自らの経済活動によって発生するCO₂量を算定し、その排出量を相殺するための事業や研究へ出資することもカーボン・オフセットの一環です。

北海道でできるカーボン・オフセットって何？



多くの自治体や組織が取り組みを開始

カーボン・オフセットの実現に向けて、北海道でも多くの自治体や研究機関・NPOなどが新しい取り組みを始めました。例えば道立林業試験場が開発した新種のマツの木「クリーンラーチ」はCO₂吸収量が従来種より20%も多く、カーボン・オフセット活動への貢献が期待されています。また植樹リレーなどのエコイベントも道内各地で開催されています。

わたしたち一人一人にできること

庭に木を1本植えるなど、ほんの少しの努力と工夫で、カーボン・オフセットの考え方はその日から実践できます。大切なのは、毎日の暮らしから出るCO₂を削減するだけでなく、すでに排出してしまったCO₂を減らしていくこと。北海道洞爺湖サミット開催まで約1か月と迫った今こそ、わたしたち道民一人一人の行動が問われています。

EVENT INFORMATION Point Green! 富良野音楽祭2008

未来のために、今こそ「地球」のことを考えよう――

今年もまた、「Point Green!富良野音楽祭」の季節がやってきました。おおらかに広がる富良野の大自然の中、音楽を通してファンとアーティストが地球温暖化防止への願いと“環境マインド”を共有する、ハートフルな野外音楽祭です。

北海道の真ん中・富良野から、地球の未来へのメッセージをやさしく届けます。また、毎年開催される植樹イベントも当音楽祭の醍醐味（だいごみ）。20年、30年とかけつて森ができていく様子を年ごとに楽しめます。

当日は、何か一つ緑色のものを身に付けて来てください。この音楽祭の意味を緑の物身に着けることで高め、皆で環境について意識しませんか？

●日時／2008年6月28日（土）・29日（日）
開場13:00～ 開演15:00～
●場所／富良野スキー場内「北の峰ゾーン 野外特設会場」

●出演
・6月28日（土）ゴスペラーズ・平原綾香・DEPAPEPE・沢田聖子
・6月29日（日）鈴木聖美・柳ジョージ・手島葵・Les.R

●主催／Point Green!富良野音楽祭実行委員会、北海道新聞社 AIR-G*（エフエム北海道）

●後援／環境省、北海道、富良野市、富良野市教育委員会
チケットは、ローソンチケット（Lコード14223）、e+（イープラス）
http://eplus.jp/、代金引換受付 0167-22-5777（代引手数料440円加算）へ。

小学生から高校生の先着1,000名を無料招待!!（往復はがきにてお申し込み下さい。）

詳細は、http://www.furanofes.com/または、Point Green! 富良野音楽祭実行委員会事務局 0167-22-5777 まで。

小野有五の伝言板



トータルアドバイザー
小野有五氏（おの・ゆうご）
北海道大学・大学院
地球環境科学研究院教授

木の声が聞こえますか？

きょうも森を歩いていると、木のおしゃべりが聞こえてきます。

「あたしたちがCO₂を吸収する、というので、植林さえすれば、これまでどおりCO₂を出してもいいと思っている人間が多いのには困ったものだわ」

「そうさ、たしかにわれらはCO₂を取り込んで葉っぱや幹をつくっているけど、われらだっていつかは死ぬんじや」

「葉っぱだって、毎年、落ちて枯れ葉になって、分解されればCO₂を出すよね」

「わしの太い幹だって、倒れれば、いつかは腐ってCO₂を出すんじや」

「一部は土になって、しばらくは、CO₂を大地にとどめておけるけどね」

「われらがどんなにがんばっても、CO₂を取り除くことなんかできやしない。」

われらができるのは、取り込んだCO₂を、そうやってしばらく蓄えておくことだけさ」

「自分たちで出すCO₂を減らす努力もしないで、木におしつけられても困るわ」

木の声が聞こえますか？ わたしたちに出来ることをやらないと、

木に怒られそうです。

小野有五